

茨城交通株式会社(代表企業)
関東鉄道株式会社
関鉄グリーンバス株式会社
関鉄パープルバス株式会社
関鉄観光バス株式会社
ひたちなか海浜鉄道株式会社
株式会社みちのりホールディングス

『茨城県 DX イノベーション推進プロジェクト事業』

茨城 MaaS 共通基盤を構築しシームレスで利便性の高い交通サービス利用環境の構築を目指します。

茨城交通株式会社(代表企業)は、この度、茨城県が公募した「DX イノベーション推進プロジェクト事業」の採択を受け、「茨城 MaaS 共通基盤の構築と公共交通運行データ利活用推進事業」を連携事業者と共に実施します。

茨城県内では、県南エリアは主として関東鉄道グループ(関東鉄道、関鉄グリーンバス、関鉄パープルバス、関鉄観光バス)が、県北エリアは主として茨城交通グループ(茨城交通、ひたちなか海浜鉄道)が運行サービスを担っていますが、それに伴う(運行情報提供や運賃支払い等)については個々のグループごとに行われているため、両エリアをまたぐ移動をするお客様にとっては必ずしも利便性の高いものではありませんでした。

これは、茨城県の地域課題でもありますが、日本の多くの地域でも同様に、事業者ごとにエリアが分断され、シームレスなサービス提供ができていないことが課題となっております。これらの課題解決に向け、MaaS(Mobility as a Service)の取組が全国各地で進められており、国土交通省や経済産業省なども、その取組を推進しています。しかしながら、現時点では交通事業者、自治体が個々にその取組を行っており、面的な広がりにつながっていない状況です。茨城交通グループは2019年度、2020年度に「ひたち圏域 MaaS」の実証実験を行い、関東鉄道グループも2020年度に「つちうら MaaS」の実証実験を実施いたしました。今般両グループは「茨城県 DX イノベーション推進事業」(県事業)を活用して、それぞれの経験・知見に基づき、茨城県全体に拡大する「茨城 MaaS」に取り組むこととしました。

また、人・もの・情報の流通および消費の活性化による地域経済への貢献も本事業の目的としています。両グループ内および相互の移動を促進する共通乗車チケットや、小売店舗・飲食店などでお得なサービスを受けられるような連携なども予定しています。

各自治体とも連携し、コミュニティバス等にも順次拡大するとともに、移動分析データを共有してより利便性の高い交通ネットワークの実現を目指します。

本事業は茨城交通株式会社(代表企業)、関東鉄道株式会社、関鉄グリーンバス株式会社、関鉄パールバス株式会社、関鉄観光バス株式会社、ひたちなか海浜鉄道株式会社、株式会社みちのりホールディングスと連携して実施します。

1. 事業概要

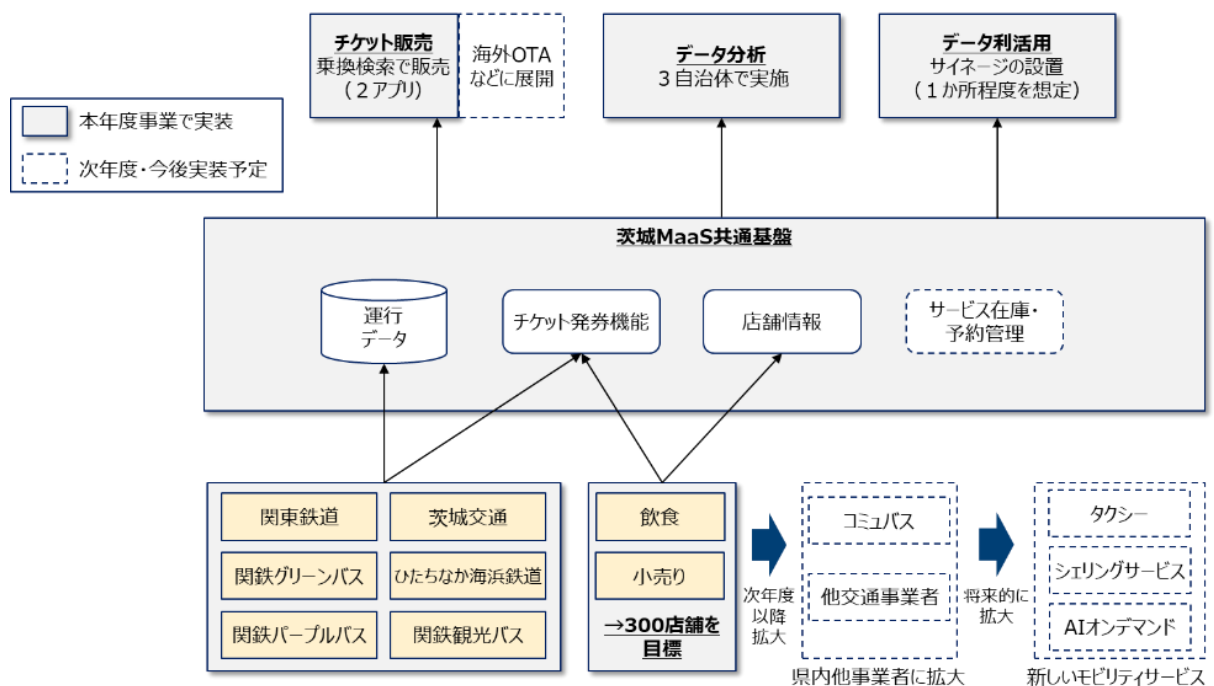
茨城県下の異なる公共交通事業者間・関連業種間のデータ連携基盤(茨城 MaaS 共通基盤)を構築し、シームレスで利便性の高い利用環境を目指します。

収集・集約した運行データは各関係自治体と共有し、多様な統計データと合わせて分析することで交通事業の生産性向上を目指します。

また、交通サービスと各種店舗(小売店、飲食店、サービス業店舗)のお得なサービスなどを連携させ消費活動の活性化につなげます。

2. 課題解決方法

- MaaS 共通基盤を構築することで、チケット発券など、公共交通の利用環境を改善することを目指します。
- MaaS 共通基盤に集約するデータを広く一般利用できるように環境を整え、商業など他業種との連携での活用を想定します。
- 利用者向けには、異なる事業者の運行情報を一元的に表示するデジタルサイネージによる共通案内やアプリなどを通して購入・利用できる MaaS サービスを県下広域で提供を目指します。
- 運行データを分析することで、例えば慢性的な遅れ区間のダイヤ改善や交通空白地域・時間帯の改善などを定量的に行い、サービスの改善を目指します。
- MaaS 共通の参加事業者の拡大を今後目指します。



【茨城県 DX イノベーション推進プロジェクト事業とは】

ウィズコロナ時代における強靱かつ自律的な地域経済の構築を図るため、最先端デジタル技術を活用し、企業の生産性向上や新しい生活様式への対応など地域課題解決に向けた研究開発プロジェクトを実施するものです。

110 件の応募があり、10 件が採択となりましたが、本事業は採択された 10 件のうちの 1 つとなります。

《本件に関するお問い合わせ》

茨城交通株式会社運輸部運輸課

TEL029-251-2335

(平日 9:00~18:00)

担当：石井・関田